



小学部

平成 21 年 8 月号 NO / 5

夏休みが始まってもうすでに折り返し、今年は梅雨明けが例年に比べると一段と遅く、過ごしやすい夏の始まりとなりましたが、雨にも悩まされるスタートとなりました。振り返ってみるとたくさんの取り組みを子ども達と過ごしてきました。この取り組みを通してどんな事を身に付けてくれているのか、今は分かりませんがきっと成長していてくれると願いながら、後半の取り組みが子ども達にとって有意義なものになるようにしていきたいと考えています。



夏のあしあと 前編

今年の夏は、梅雨がなかなか明けず遅い始まりとなりました。天候に悩まされながらも・・・天気には恵まれ？これまでの行事に大きな変更もなく夏休み前半を終えることができました。今年の夏は児童デイサービスに移行しての初めての夏。昨年の夏と比べると時間にも余裕があり、じっくりと取り組める内容と多くの経験・体験をする取り組みとに分けて行なっています。子ども達の生き生きとした姿・表情をご覧ください。

ランチタイム

お弁当の時間。子ども達にとって一番の楽しみ
ママたちへ お弁当作りありがとう！



恒例のはがき作り
今年の夏のテーマは花火
色取り取りの花火が夜空に
咲きました。



はがき作り ～暑中見舞い～



流しそうめん

恒例行事のひとつ！ 子ども達も楽しみにしていることがスタッフの原動力
となっています。準備は大変 天気には左右される 取り組みとしては 絶対安心は
ありえないのですが・・・子ども達の喜ぶ姿を思い浮かべながら頑張っています。今
年も流れてくるそうめん到大歓声があがっていました。

夏の風物詩 スイカ



スイカを頂きました。ありがとうございます。
続けていただいたので食後には子ども達からスイ
カの催促が・・・
とっても ちゃっかりした子ども達でした。

調理実習 カレーライス



うどん作り



調理実習では、中高生のお兄さん・お姉さん 未就学の小さなお友達と力を合わせて昼食作りをしました。うどん作りでは力強く生地を伸ばし製麺機にかけて麺を作ります。取り組みに見通しを持ち一人ひとりが集中して取り組みました。カレーライス作りでは野菜の下準備を担当！細かな作業でしたが集中が途切れることなく頑張れました。



制作活動

今年から新しく加わった制作活動 ビー玉ジェットコースターを作っています。これまでの基本療育で棒差し・空間認知力を高めてきました。その成果を形として残したい・・・と始めたのがきっかけです。マーキングした箇所に一本一本つまようじをさし、指先の力加減に気を使いながら・・・力を継続させ取り組んでいます。作品が完成しなくても取り組んでいる過程を評価して頂きたいと願っています。子ども達の頑張りに拍手！

いろいろな所に行ったよ

外出・乗車訓練 今年から少し遠出をしています。バスの乗り継ぎ

バスから電車への乗り継ぎ たくさんの経験・体験を積み重ねています。



第二夢んぼとの交流会

バスと電車を乗り継いで行って来ました。滞在時間30分というハードなスケジュールの中行きはご機嫌だった子供たち、初めて出会う人に緊張し、いつもはお代わりをするカレーライスも喉が通らず・・・帰りの電車の中では夢の中でした。みんな本当に良く頑張ったよ！



アクア・トト岐阜 たくさんの魚にビックリしながらも、水に親しみ 癒されてきました。噴水から吹き上がる不思議な水の動きに心を奪われていましたよ。

Kのひとこと職員紹介第2弾

子ども達と関わりが深くなると、つい「コラー・何してるー」と怒り口調になる。しかし、つぼみには、どんな時も、穏やかにそして優しく、関わる先生がいる。島塚先生だ。通称、島先生。笑い方に特徴があり「オホホホ」と上品な一見つぼみにの雰囲気合わない様に思える。ところが、子ども達には、大人気！！そんな、島塚先生は、地味な見た目を一新、最近では、消火器と間違えてしまうほどのつぼみTシャツを自ら選び、積極的に子どもたちの戦いの場に現れ、静かな声、低い声で「どうしたの？」と耳を傾ける。子ども達は、表情を失い、消火器に向かい...いえ...反省をし素直に謝る事ができる。

島塚先生は子どもが大好き、優しく力持ちとは島先生の事(笑)ある時のエピソード。外出する際、子ども達が、島塚先生の手を取りに行った。普通なら「 ちゃんは、 先生だよ。」というのであろう。島塚先生は、「こんなにたくさん、手を繋ぎに来てくださって...私なんかでよろしいのでしょうか？島塚は光栄でございます。」と涙を流した(笑)バスから降りる時には、たった一人で車椅子を担ぎ植木をまたぎ降りて行く。だからこそ、島塚先生に職員も子どもたちも信頼しきっているのだ。大きな身体で小さな気づきのできる島塚先生は、今日もつぼみで「とんでもございません」「かしこまりました」と笑顔で通ってくる親子を迎えていることでしょう。